

## 〈所感〉

アクティビティとしては大変楽しく取り組めた。しかし、生徒の感想を見ると、相手国との違いに戸惑ったことには触れているが、それが実際の生活で起こっていること、起こりうること



授業の様子

まで結び付けて考えることができている生徒も多かった。アクティビティのまとめをどう行っていくのかに課題が残った。



異なるカード交換を体験中…



## 7・8 時 限 目 お互いを尊重し、共に生きるために

### A 異文化の中で暮らす

・自分が異文化の中に入るときの気持ちや行動、配慮すること、してほしいことを考える。

全く違う文化・習慣の国でホームステイすることを想定する。また、自分の文化が否定され、相手の文化を押し付けられたらどういう気持ちになるかを考える。

### B 海外から友達がやってきた!

・異文化を持った人が自分の文化の中に入るとき、どうすることが大切か、お互いに気持ちよく過ごせる方法を考える。

自分の家や学級に外国から友達がやってきたことを想定し、具体的な行動目標を立てる。

### C ここは日本なのだから

・異文化接触の生む摩擦について知った上で、民族や文化の違いを認め、尊重しようとする気持ちを養う。  
日本の中学校に来た中国人生徒の「陳素さんの作文」を読んで、異文化接触の生む摩擦について理解し、お互いの立場から考える。

### D 学習のまとめ

・異文化理解学習のまとめを行い、学習の成果を日々の生活と結び付けていくことの大切さを知らせる。  
「ユネスコ憲章前文」を紹介し、人々が互いの文化を知らないことは戦争につながることを、互いの文化を認め合うことが平和への道であること、自分の中にある「思い込み」や「偏見」を自覚することが異文化理解の第一歩だと確認する。

## 〈所感〉

生徒の多くが異文化の生活に興味は持っていても、いざ暮らすことを考えると、なかなか今の生活習慣を変える勇気や覚悟はないようで、自分たちの文化や習慣を教えることで、違いに対処するという意見が多かった。また、片方の側だけでなく、お互いが理解のための努力を平等にするべきだという意見もあった。相手を認めるという意識はうかがえるが、どうやって、相手に「あなたを受け入れます」ということを伝えるのか、その部分が抜けているようにも思えた。日本人同士でも、言葉の行き違いや誤解が生まれることがある。異文化理解は日々の人間関係を見つめ直す機会にもなることに気づかせたい。

### 生徒の感想より

今僕達は、日本という国に住んでいるけど、この日本の文化・伝統を守っていかないといけないなと僕は思いました。あと、人を大切にして平和をたくさん作ってみたいです。

異文化理解学習を終えてやっぱり国はそれぞれ違うんだなあと思いました。そして国には必ず文化があると分かりました。

さまざまな文化を知り、その文化のおもしろさを見つけていくことも、さらに異文化を理解できる重要な事だと思います。

日本と外国では、生活の決まりや、言葉や文化も全然ちがうから、困ることも多いと思うけど、相手の国のルールや決まりなどをちゃんと理解しあって、話し合えば、伝わることもあるのではないかなと思いました。

異文化理解のためには、自分の国の慣習や価値観にとらわれず、偏見を取り除いて、違いを素直に受け入れて自分のこともわかってもらう努力をすることが大切だと思います。

ガーナのトイレもみんなはかなり驚いていたけど、ある意味日本より合理的だと思えました。日本のように大量に水を使わないし、土はその後肥料になるので日本より水などを大切にしていると思えました。



授業の様子

## ❖ 成果と課題

- ・日本で当然と思っていることが、必ずしも世界で常識とは考えられていないということに気づかせられたのは一番の成果だ。中学1年生の段階で、知らず知らずの内にできていた固定観念に揺さぶりをかける機会を与えることができた。
- ・国際理解学習と聞いて、何かとても難しいものだと思える生徒もおり、最初はどんな授業になるのか不安に思っていたようだが、学習を進めていくにつれて、違いを見つける楽しさや、国と国だけでなく、人と人、自分と相手という関係の中での理解が国際理解の核になるのだということに気づいていった。
- ・日本と世界だけでなく、日本の中でも、それも同じクラスの中でも文化の違いがあるということは、生徒にとって予想もしなかったことのように、大きな驚きとなり、今後の異文化理解のカギになると思う。
- ・ガーナでの体験を教材化し、ガーナで見た人物や風景を写真で紹介した。当然、使用した写真には生徒に気づかせたいことがあるものを選んだのだが、教材を作る際に、テーマを持って撮影することが大事だと改めて思った。テーマやメッセージを持った写真を見て考えることで、生徒には発見を生み出す、新しい物の見方を身に付けさせたい。
- ・世界の国と、日本を比較することで、今まで気づかなかった日本のよい所を知り、当たり前ではないありがたさに気づくことができたのはよかった。しかし、異文化の生活を垣間見た結果、日本以外には住めないというようなネガティブな感想を持った生徒もいた。
- ・パファパファの活動では、カードゲームを通して異文化交流を体験したのだが、ゲームとしての感想しか得られず、実際に異文化の中に入った時を想定させるまで、うまく発展できなかった。この活動の意義を理解している側から観察したら、相手国に行った時の生徒の様子は、本当にカルチャーショックを受けているようで、慣れ親しんだ友達とさえ、コミュニケーションがぎこちなかった。その様子を活動後に、教員がまとめとして伝えることで、この活動の意味を初めて理解できると思われるが、その部分が時間配分の点からしても不十分だった。
- ・教員間の共通理解を徹底しておかなければ、学級によって、授業のねらいを十分に伝えられないまま終わる可能性がある。ここに学年全体で取り組む難しさがあり、教員研修の時間を確保する必要がある。

・伝えたいことが多すぎて、一つに絞り切れなかったり、複数のテーマを一度に押さえがちになる。結果、生徒には何も伝わらない授業になってしまう。欲張らず、一つ一つのねらいを達成できる授業を作っていく。

・2007年の夏のガーナで感じたことが全てではないので、自分の考えを固めてしまわないように、常に疑問を持ちながら国際理解学習を進めていきたい。何を伝え、何を考えさせたいのかをはっきり持って、その方法を探りたい。

## 📖 参考資料

- ・「レヌカの学び」制作：土橋泰子／開発教育協会
- ・関西セミナーハウス主催「'95 開発教育推進セミナー第1回」  
参考資料
- ・「教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻」  
独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター

田中 紀子  
報告書①

古野 匠子  
報告書②

村木 啓司  
報告書③

重森 美由姫  
報告書④

黒明 堅一郎  
報告書⑤

山崎 知代子  
報告書⑥

祝迫 直子  
報告書⑦

河毛 樹  
報告書⑧

森 泰三  
報告書⑨

安部 一天  
報告書⑩

参考資料